

## 洛和会京都厚生学校 学校評価 令和4年度学校関係者評価結果

令和4年度洛和会京都厚生学校の学校評価に係る自己評価結果を踏まえ、以下のとおり学校関係者評価を行ったので、ここに評価結果を取りまとめ、提出いたします。

令和4年度の最重要課題は「広報戦略の充実」という具体的なテーマ設定がなされたところであるが、これは昨年度の学校関係者評価において、各種媒体を使ったPRが分散しているため、統括的な委員会の設置について提案したところであるが、早々に時宜を得た当意即妙な取組みが展開されたことに敬意を表したい。

### 1 基礎データ（令和4年度）

基礎データとして示された生徒数、国家試験合格率、就職率については、概ね昨年同様の結果であったが、国家試験合格率が僅かながら減少している。合格率については合格者が1名減少することで2～5ポイントの低減につながるわけであるが、引き続き合格率100%、就職率100%を目指した学校運営に全力を傾注いただきたい。

### 2 評価項目

#### (1) 教育理念・教育目的について

教育理念・教育目的は、元来、学校の設立目的・存立基盤とも言えるものである。それゆえ教職員はもとより生徒にどれほど伝わっているかは学校としてしっかり把握しておく必要がある。昨年の関係者評価で教職員・生徒の理解度、認識度をアンケート等で把握すべきと提案したが、今回はそのアンケート結果が示された。

教育理念の理解度は看護学科で88.2%、助産学科で83.3%が理解できており、教員の78.9%が浸透させられたと感じている。教育目的はそれぞれ91.6%、83.3%、84.2%ができていると感じていたが、「内容を知らない」「意識したことがない」「周知する機会がない」等の記述も散見された。教育理念・教育目的が学校全体に真に根付く工夫を期待したい。

#### (2) 学校運営について

令和4年度の学校運営で特筆すべきは、やはり「広報戦略委員会」の立ち上げであろう。まずは情報共有といった段階であろうが、看護師養成所については専修学校・短期大学が減少、大学の看護学部が増加という今日状況の中で、教職員全員が課題意識を持ち、本校の魅力をいかに幅広い対象に届けることができるかの意識づけを図っていただきたい。

なお、インスタグラムの配信回数は統計を取った9月の34回に比し2月には69回とほぼ倍増、ホームページのトップページ閲覧数は上半期と下半期では概ね200件の増加が見られた。日常的な配信をさらにきめ細かく行っていただくとともに、SNSの効果的

な活用を積極的に図っていただきたい。また、その際、高校生等の若年層だけでなく、リスキリングやリカレントを目指す学生層・社会人層に向けた PR 手法についても検討いただきたい。

### (3) 教育課程・教育活動について

教育理念・教育目的同様にアンケート調査でシラバスの有用性、カリキュラムの工夫、学習へのフォローについての生徒及び教員の意識を比較したところ、シラバスについて役立ったとの評価は看護学科生徒で 8 割であったが、助産学科生徒及び教員は 7 割を切っている。カリキュラムについても、まだまだ工夫する余地が残されている。学習の躓きに対しては級友に聞く・自分で調べるといった行為が教員や指導者に聞くという回答よりも多い。また、僅かではあるが、「そのままにしておく」という生徒もいたことから、教員の見逃しのない観察と教員相互のさらなる連携を期待したい。

### (4) 学習の到達度について

基礎データにあるように令和 4 年度における本校の看護師国家試験合格率は、看護学科、助産学科ともに前年を下回る結果であった。両学科とも人数にすればほんの 1 人の差ではあるが、学習の到達度として受験者の 100%合格が達成されるよう教員各位には尽力いただきたい。また、学習途中で生徒が進路変更することなく、看護への道を追究できるよう、学習や生活の相談体制を充実していただくことが望まれる。

自己評価にもあったように、退学防止対策プロジェクト及びタテ割りやチューター制による学校サポート事業の充実を進めていただきたい。

### (5) 奨学金など生徒への支援状況について

「大学等における高等教育の修学支援新制度」対象校となったことは誠に喜ばしい。全国の高校に対する周知もなされたようであり、学校選択の要因となれば何よりである。

しかしながら、当該制度は高校卒業後 3 年以内という期間要件があることから、社会人進学者には適用され難い。洛和会関連の奨学金にも高校新卒者に限定されたものもあり、今後においてはそうした層についてのサポートも検討いただきたい。

また、国の「専門実践校育訓練給付制度」については、一定期間雇用保険に加入していた社会人経験者の学費サポートとして魅力的であり、指定講座となる要件を確保・継続していただきたい。

### (6) 教育資材・教育環境の整備について

教育資材については新規購入や補充などが行われており、適切であると認められる。また、コロナ禍においてもオンライン授業などにより学習の停滞を阻止されてきたことは評価できる。今回生徒へのアンケートもなされたようであるが、アンケートの選択肢の一

つとして、次年度はより細かな分野で何が不足し、何が足りているかを把握させていただきたい。

さらに、2年後の校舎新築移転を見越して、設備・備品の整備・補充を生徒目線で計画的に進めていただくようお願いしたい。

#### **(7) 入学志願者増の取組について**

令和4年度はオープンキャンパスの参加者が増加しており、これはオープンキャンパス委員会はもとより担当教員の丁寧な企画・実践の賜物であったと言えよう。

複数回参加者もあり、洛和会京都厚生学校への強い入学意欲を感じられる。再受験に際しては受験料の減額などを検討されてはどうか。

また、仕事などで平日の昼に参加していただけない社会人進学者についてもオープンキャンパスを体験していただくことは極めて有効であり、平日夜間の開催など機会提供に向けた手法も検討されてはいかがか。加えて、遠方からの入学志願者獲得に向けてWEBでのオープンキャンパス（オンラインではなく、いつでもどこでも厚生学校の学校説明や授業実態を体感していただける方式）を検討されたい。

#### **(8) 特別活動について**

令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症が収束せず、研修旅行などが中止された。しかしながら、生徒が主体となった「水脈祭」については、近隣住民への参加呼びかけを自粛しつつも、徹底した感染防止対策を施しながら創意を凝らした取組みを展開されたようである。

また、戴帽式についてはキャンドルセレモニー（看護の誓い）と名称を改め、校内ホールから近隣文化会館に会場を戻して実施された。忘れがたい記憶となったのではなかろうか。

特別活動は、対人関係能力の育成や主体的・能動的な課題解決能力の醸成に深くかかわるものであり、節目節目で生徒のモチベーションを高めるためにもさらに工夫していただきたい。

#### **(9) 地域・社会への貢献、他機関との連携状況について**

洛和会京都厚生学校は、地域医療の中核を担う洛和会ヘルスケアシステムの一つとして地域とのかかわりを重視している。従来から高校への出前授業や保育所での手洗い指導などを行っておられるが、新たに地元中学校へ赤ちゃん人形など学校の教育資材を貸出し、地域の保健センターとともに特別授業の支援が行われた。

また、地域の図書館で「地域と看護～ナイチンゲールの夢」と題した生涯学習講座の講師を務め、看護師養成の歩みについても述べられ好評を博されたようである。

さらに、生徒たちは地元のボランティア活動として、JR 山科駅において警察署ととも

に痴漢撲滅の街頭啓発活動に取り組まれていた。

今後とも地域の諸機関との連携により、相互に協調・協働して洛和会京都厚生学校ならではの取組みを引き続き展開していただきたい。

### 3 レーダーチャート

項目	評点
1 教育理念・教育目的	4
2 学校運営	4
3 教育課程・教育活動	4
4 学習到達度	4
5 生徒支援	4.25
6 教育資材・環境	4.25
7 募集・応募	4
8 特別活動	3.75
9 地域貢献・機関連携	3.75



以上、「洛和会京都厚生学校 学校評価実施要綱」に基づき、校内委員会がまとめた令和4年度の自己評価結果を学校関係者により点検・評価を行った。

昨年度評点の低かった特別活動、地域貢献についてはコロナ禍においてもその収束度合いに応じた対外的な取組みが展開されたと認められ加点した。また、学習到達度については国家試験の昨年度実績を下回ったことから前年より低い評価となった。

コロナ感染対策を行いながらも水脈祭、キャンドルセレモニー、出前事業、オープンキャンパス等、特別活動や地域への貢献等に尽力し、成果も得られた。加えて、シミュレーター等の新教材の導入や各委員会の充実と教育体制整備、SNSでの広報活動の強化で学校の魅力（新築移転計画の公表も含む）を伝えられたことで募集活動にも期待が持てる。以上の結果、今年度の平均値は4.0となった。

全般的に前年度よりも取組実績が明確になり、高く評価する。本評価結果を共有いただき、PDCAサイクルによるさらなる学校改善に役立てていただきたい。

(参考)

学校関係者評価委員会

令和5年6月26日

学校法人洛和学園評議員1名、同窓会関係者1名、実習先関係者2名 計4名

## 洛和会京都厚生学校 学校評価 令和3年度学校関係者評価結果

令和3年度の本校の学校運営についての自己評価結果を踏まえ、以下のとおり学校関係者評価を行ったので評価結果を取りまとめます。

最重要課題とされたコロナ禍における安心安全な学校運営については、リモート授業等の導入をはじめとした感染予防対策の徹底が図られ、良好な結果につながったと思われる。

以下、各項目ごとに自己評価結果を点検していく。

### 1 基礎データ

基礎データとして示された生徒数、国家試験合格者数、就職率については、今日、少子化、大学での看護学科の創設等の影響で、看護学校では入学者の減少や募集停止、廃校なども見られるところであるが、洛和会京都厚生学校においては看護学科で定員を若干上回り、助産学科でも定員が確保されている。

その背景には国家試験の合格者数、卒業生の就職率の高さも影響しているものと思われる、これらを引き継ぎ「温かく、存在感のある看護師・助産師の育成」に努められたい。

### 2 評価項目

#### (1) 教育理念・教育目的について

教育理念・教育目的については、様々な媒体や機会を有効に活用し、教職員はもとより生徒への浸透に努められてきたと認められる。

今後においては、さらに個々の認識度合いについてもアンケート等で把握されることも効果的と思われる、その手法を検討されたい。

また、教育理念、教育目的については、「不易と流行」を見据え、適当な時期に見直すことも有効である。教育理念及び教育目的は学校教育の基礎であることを改めて認識し、必要な変革を進めていただきたい。

#### (2) 学校運営について

令和3年度においては、委員会活動やプロジェクト活動を通じて、新たな課題にも対応しうるよう運営体制を整えられており、今後においても時宜に応じた臨機応変な体制づくりを行っていただきたい。なお、現在、各種媒体を使った学校のPRが分散して進められているが、その統括を行う委員会の設置も効果的ではないかと考えられ、委員会間の情報共有の促進について検討を深めていただきたい。

#### (3) 教育課程・教育活動について

定められた学習過程に沿って授業を展開するうえで、今回のコロナ禍は極めて困難な事態を引き起こしたと思われる。今後も遠隔授業の実施やリモートでの実習などが

積極的に展開されるよう、臨地実習施設等との連携強化を深め、さらなる環境改善に努めていただきたい。

#### (4) 学習の到達度について

学習の到達度としては、国家試験合格率に収斂しがちであるが、看護学科においては3年間の修学期間があり各年の到達度を把握しておくことも肝要である。見逃しのない観察をさらに徹底していただき留年率の低下を図っていただきたい。

また、看護師・助産師としての学びに終わりはなく、社会の変化、価値観の多様化にも対応しうる豊かな人間性と学習意欲をこの修学時に身に付けさせていただきたい。

#### (5) 奨学金など生徒への支援状況について

新型コロナウイルスの影響もあり、世帯収入や学生のアルバイト収入が激減している。こうした状況のもと、真に支援の必要な低所得世帯の学生等の就学に係る経済的負担の軽減を図ることは急速な少子化の進展への対処に寄与するものでもあるため、洛和会奨学金のみならず国等の各種奨学金についても積極的な活用を推進していただきたい。

#### (6) 教育資材・教育環境の整備について

ICTの進展により、さらなる技術革新が見込まれ、今後においては医療現場における情報化、高度化への対応が不可欠である。看護医療界全体の動向を踏まえるとともに、よりきめ細かく生徒の声に耳を傾けて教育環境の整備・充実に努めていただきたい。

#### (7) 入学志願者増の取組について

少子化が進行する中、現役高校生のみならず、すでに高校を卒業し、その後進学や就職をされた方々、家庭に入られた方々にもリカレントや再進学先として選んでもらえるよう教育内容のさらなる充実、広報活動の積極的な展開を行い、認知度アップを図らなくてはいかかがか。そのための施策を点検し充実されたい。

#### (8) 特別活動について

コロナ禍においては特別活動自体が自粛される結果となり、評点も低かったことはやむを得ない結果でもあったが、こうした活動は生徒が一般の方々とコミュニケーションをとる貴重な実践の場でもあることから、生徒自身が主体的に参画し、活動されることが望ましく、創意工夫を凝らした様々な機会を設けていただきたい。

#### (9) 地域・社会への貢献、他機関との連携状況について

地域・社会への貢献、他機関との連携については今後の課題かと思われる。学校の持つ人的・物的資源を地域の諸機関に提供するなど方向性を検討していくことが望まれる。



とりわけ行政や生涯学習施設等とも積極的な連携を図り、さらなる地域貢献、他機関連携を進めていただきたい。

### 3 レーダーチャート

学校関係者評価(5段階)

項目	評点
1 教育理念・教育目的	4
2 学校運営	4
3 教育課程・教育活動	5
4 学習到達度	4.75
5 生徒支援	5
6 教育資材・環境	3.5
7 募集・応募	3.25
8 特別活動	2.5
9 地域貢献・機関連携	2.5



以上、「洛和会京都厚生学校 学校評価実施要綱」に基づき、令和4年6月24日に校内評価委員会がまとめた自己評価結果を学校関係者により点検し、評価を行った。

自己評価に比し、教育理念・教育目的は教職員及び生徒の個々の評価も加えるべきと考えられ、評点を下げた。同様に、教育資材・教育環境については、生徒のニーズをさらに深められるよう検討を加えていただきたく評点を下げた。特別活動についてはコロナ禍においても感染防止を徹底しキャッピングセレモニーなどいくつかの取組みが挙行されていたことから加点した。以上の結果、平均値は3.8となった。

本評価結果についてはホームページ若しくは刊行物への記載、施設での掲示等により公表し、令和4年度の学校改善に役立てていただきたい。

(参考)

学校関係者評価委員会

令和4年6月28日

実習先関係者2名、学校法人洛和学園評議員1名、同窓会関係者1名 計4名